

再発見 The Art of Refereeing

ラグビーを楽しむのに役立つ必読書といわれる “ The Art of Refereeing ” を読み直してラグビーの面白さを改めて認識しました。

身体的強さや技能を要件とする競技においても美しさを評価の対象とするスポーツが色々あります。オリンピックの発祥にも見られるように、それは身体的美しさの中に真善美を追求する人間の本能に基づくものです。

ラグビーが力強く激しい身体活動を転化する中で友情やユーモアを育み、レフリングについても芸術性を追求してきました。31 人目のプレーヤーと言われ 'good game' を作り出す同行者としてレフリーも誇りを持って努力してきました。

“ The Art of Refereeing ” はレフリーだけでなくプレーヤーにも観客にとっても必読書で正に聖典と言われるにふさわしいものです。

創刊当時、1965～1966 年のイングランドラグビー協会長が序文に書いているように分かりやすく視線を下げて書かれた労作です。ハイレベルの知識や経験をもとにしながらも、高所から命令・指示するよりもむしろ助言することによって向上することを願っています。

『 』印の本文を参考に考察してきましょう。

『困難であるが魅力ある referee という仕事にたずさわるのに役立つ筋道を暗示し、意欲的に自分自身へのスタイルを築こうとする時に、基礎なるものを用意し提供できることが目的です』

「自分自身へのスタイル」という言葉に注意してください。固定観念の元にはめめるのではなく、個人の創意工夫を促しています。

目的達成のために本の内容として意図されていることを次のように列挙しています。

『基礎となる理論やルールのことと、進歩上達した高度のことを一辺に述べる』

と説明しています。その理由として。

『あらゆる水準のレフリーがこの本を読むだろうし、また読んでほしい』

言うことが理由の一つであり、

『初心者がこの尽きることのない魅力ある仕事に取り組み徐々に上達する過程は重要なもので、上達しようとするのがレフリング向上のため、楽しむために必要』

近年のレフリングは学問でも芸術でもない前置きしたマニュアルも出版されていますが明言を教えることでレフリングに取り組みやすくすることが意図であることが理解できます。勉強し経験をつめば誰でも高いレベルに達することができるという自信を持たせるものです。

“ The Art of Refereeing ” のレフリングは Science でなく Art であるからと宣言して書き進めています。レフリングが Art であるという考え方は、レフリングは物理的に論理的に取り組むことによって分析し解決しうる面を持っているということです。学問 learning 習い覚えるのではなく、科学 science という語で表しています。Art の中身として人間性の豊かさやユーモアをも含めて考えています。それは芸術の崇高性だけを指すのではなく身近なものでもあるのです。

Editor は H.F.ELLIS です。Editor's Note でこの本の意図・目的をわかりやすく述べています。

『実際経験と目標に多くのことを考えることが必要であって考えるのに役立つものが必要』

と述べています。次に

『ルールについては基本的なことを重要的に取り上げ細部にわたって詳細に述べることを避けて勉強の方法に重点をおきました。まず自分自身で学ぶことが大切で、先輩に聞くことやフリーの会合に出ることの必要性』

を説いています。自分自身で努力するだけでなく視野を広げることが大切だということです。

ルールについても冒頭から丸暗記するということではなく、

『ルールをグループ別に整理することの利点』

についても述べています。この点についてはこの本が書かれた時代より複雑になった面と整理された面が現在のルールに見られます。

Editorはこの本を読んでほしいと読者の対象として、

『レフリーは勿論ですが、プレーヤーや観衆を指している』

ことは特筆すべきことで珍しいというか素晴らしいことです。プレーヤーや観衆がこの本を読む必要性について、

『彼らが幾らか口を慎むようになり、またレフリーの失敗に対して少しは寛大になり、或いはまたレフリーが失敗をおかしたかどうか関心を持つようになるであろう』

と述べていることの中味は非常に意味深いものがあります。口を慎み失敗に寛大になるためにはレフリーの精神状態と努力に対する理解が必要です。この本はレフリーを理解することにつながる大きな内容を持っています。レフリングニミスがあってもそれも人間らしさの一つです。お互い人間性豊かに許し合ってスポーツマンシップでスポーツを楽しもうとするものです。特にプレーヤーとしては、

『レフリーが目指していることを理解してプレーすることがプレーヤーとしての成長に役立つ、ルールの歴史の勉強は鋭い洞察力を養うことが出来る』

そしてそれは将来レフリーをするのにも役立つでしょう。

観衆については、

『わからないままに放言を楽しむことにならない』

ように教えています。ラグビーの良さを知ってより楽しむことを勧めています。素晴らしい芸術作品をしっかり見ることは観衆の人生にも役立つことです。

素晴らしいレフリングを引き出すのはプレーヤーであり、素晴らしいレフリングを生み出すのはプレーヤーと観客です。

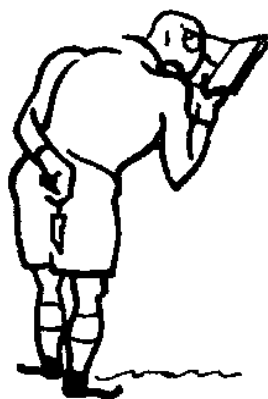
さて、第一章に入る前にイラストについて触れておきます。
まず始めに表裏の表紙、扉（標題紙）、目次にあります。



表紙イラスト



裏表紙イラスト



扉（標題紙）イラスト



目次イラスト

一連の図はユーモアあふれる芸術作品というべきで見れば見るほど考えれば考えるほど味が出てきます。読者の多くのことを物語っています。Editor は Editor's Note で Fougasse に感謝に意を述べています。

第一章より次稿とします。

注意：本文は古い本の再読のため、ルール及び解釈は当時のものをそのまま使用しています

2010. 10. 11
西川 義行